

★今週の聖句

多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである

マルコによる福音書 10章 45節

★ねらい

神さまが支払う代価の大きさを知らせることを通して、神さまがわたしたちをどれだけ大事に思ってくれているかを理解させる。

★ 説教作成のヒント

「自分の命をささげる」という神様のわざは子どもには分かりにくいので、うまく伝えるために表現を工夫したい。マルコ 10 章 45 節のみことばは、イエスさまが弟子のヤコブとヨハネ（二人は兄弟）から「（イエスさまが）栄光を受けるとき、わたしたちをあなたの右側と左側とに座らせてください」と頼まれたときの話の流れから出たものである。これは、やがてイエスさまが勝利を得、王座に着いたときに、自分たちを右大臣と左大臣（つまり側近中の側近！）にしてくださいと頼んでいることを意味する。他の弟子たちを出し抜いて、自分たちを一番のイエスさまのお気に入りとして選んでほしいというのである。そのヤコブとヨハネに対してイエスさまは「それはわたしの決めることではない。それは、定められた人々に許されるのだ」と、あくまで決めるのは神様であると二人を突っぱねる。そして、もし一番上になりたいのなら、みんなに仕えるしもべになりなさいと諭す。なぜならイエスさまご自身も仕えられるためではなく仕えるために、言い換えるならば、一番上になるためではなく一番下になるためにおいでになったからだ。

これがこのテキストの要点であるが、幼稚園の子どもたちには、これをそのまま伝えても話を把握するのはなかなか難しい。「みんなに威張ってはいけません。みんなにやさしくしなさい」と言ってもできないのが子どもなので、「多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである」という一文をなんとかうまく説明して、「ねらい」が心にストンと落ちるようにしたい。ぬいぐるみを使用したり、紙芝居でお話するのもよいだろう。Ipad で羊やオオカミの写真を見せるのも一つの手だ。

★ 豆知識

イエスさまが十字架にかけられて「多くの人の身代金として自分の命を献げる」ことは、旧約聖書イザヤ書 53 章 10～12 節に約束されていたことであった。「彼は自らを償いの献げ物とした」（10 節）。「彼は自らをなげうち、死んで…」（12 節）。また、「身代金」は元々、戦争で敵軍に捕らえられた捕虜や奴隷を釈放させるために支払われた金のこと。イエスさまは自ら犠牲の献げ物となって十字架にかかり、死ぬことによって（身代金を支払ってくださって）、罪の奴隷状態にあったわたしたちを解放された。

★ 説教

あるところに、羊の親子がいました。ある日、小羊は友だちと公園に遊ぶ約束をして「パパ、遊びにいつてくる」とおとうさん羊に言いました。お父さん羊は「オオカミがいるかも知れないから気をつけてね」と声をかけると、小羊は元気に「うん！」と言って出かけました。公園に着くと友だちが砂場で遊んでいました。「ぼくも遊ぶ！」と、みんな

なの仲間に入り、お川を作り始めました。そこに、おおきなオオカミがやってきて「ぼくたち、楽しそうだね、わたしも入れておくれ」と声をかけてきました。「わー、オオカミだ！」大きなオオカミの口に見えるキバを見てみんな怖がりました。そうです。じつは、オオカミは小羊たちを食べようとそばに近づいてきたのです。「オオカミに食べられてしまう！」そう叫んだ小羊の声を、そばに隠れて見ていたお父さん羊が聞き、すぐにそこに来てくれました。「こら、オオカミ、小羊たちに手を出すな！」お父さん羊はオオカミに言いました。しかし、大きなオオカミと羊では勝負がはじめからついています。どうがんばってもオオカミには勝てません。お父さん羊は言いました。「小羊を食べたいのなら、このわたしをお食べ！」この子たちを守るために、お父さん羊は自分が代わりに食べられようというのです。すると、オオカミは大きな口を開けて、お父さん羊に襲いかかりました。あっという間にお父さん羊はオオカミに丸呑みにされてしまいました。「ああ、パパがオオカミに食べられた！」小羊が叫びました。次の瞬間、オオカミの大きなお腹を突き破って、お父さん羊は出て来ました。お父さん羊は自分の角をつかって、うまくお腹から出ることができたのです（お父さん羊には角があって、小羊にはないのはそういうことなんだね...）。小羊はお父さん羊がオオカミのお腹から出て、生きているのを見て安心しました。お父さん羊は、自分が死んででも、子どもたちを守ろうとする。それほど、みんなを大事に、大切に思っているのです。めでたし、めでたし。このお父さん羊のように、イエスさまはわたしたちのことを守ってくれるんだよ。

### ★分級への展開

さんびしよう

\* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

36番

改訂125番

話してみよう

- ・みんなのお父さん、お母さんはみんなのこと、このお話の「お父さん羊」のように大事にしてくれてるかな？
- ・みんながこのお話の「小羊さん」だったら、自分を助けてくれた「お父さん羊」になんて言うかな（なんてお礼を言うかな）？

やってみよう

ありがとう牧場をつくろう

<用意するもの>ワークシート、筆記用具

- ①ワークシートをくばり、記入していく
- ②書き終わったら、みんなで発表してみよう。
- ③もしできたら、ありがとうを伝えたい人に直接言ってみよう。

私たちはたくさんの人たちに守られているよね。1人1人のこと思い浮かべながら、感謝の気持ちを言葉にしてみよう。



なまえ: \_\_\_\_\_

きにゆうび: \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

*Thank you* 牧場

★今週の聖句

この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる

ヨハネによる福音書 2章19節

★ねらい

イエスさまがあらかじめ自分が死からよみがえることを弟子たちに伝えていたことを理解させる。

★説教作成のポイント

話の全体像としては、犠牲の捧げ物としての動物を売っていた神殿商人たちを蹴散らすイエスさまに人々は批判の目を向ける。自分の行為の正当性を示すしるしを人々はイエスさまに求めるが、イエスさまが示すしるしとは、やがて十字架にかけられて死に、三日後に復活をするという神のみ心を行うことによって顕わになる。それが「この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる」という意味である。

当時の祭儀や巡礼について子どもたちに理解させるのは難しい。現代にあって、初詣に行ったときのお賽銭を投げるという行為と結びつけることもできるが、わざわざCSのお話しの中で神社での初詣に言及する必要はない。ここでは「この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる」というみことばの意味を理解させることにポイントを集中させたい。

★豆知識

神殿で犠牲の捧げ物としての動物を売ることは、遠く遙々、神殿にお参りに来た巡礼者にとっては必要不可欠なものであった。牛や羊を家から何日間もかけてこのエルサレムの神殿に連れてくることは事実上不可能なので、巡礼地において買うのが人々の慣習となっていた。しかし、「宮清め」と呼ばれる、神殿でのイエスさまのこの大胆不敵な行動は、当時の宗教的祭儀的行事のための動物売買が「人々から暴利を貪る行為」として見なされ、それに対する徹底した非難の表れとして理解される。そしてそれは、ただ単に神殿商人への非難だけにとどまらず、当時の神殿体制そのものとそれを支配するユダヤ教の腐敗を露呈するものとなっている。

★説教

イエスさまがこの地上で生きていた時代、大きくてきらびやかな神殿が町の中央にありました。みんな「神様がここに住んでおられる」と言って、この神殿を大切にしていました。この神殿をイエスさまは「壊してごらん、わたしが三日で建て直すから」と言いました。イエスさまのお話を聞いていた人々はみんなびっくり。「この神殿は建てるのに46年もかかったんだよ。三日で建てなおすなんて無理だよ」、人々はそう言いました。みなさんのお父さんお母さんは何歳かな？きっとお父さんお母さんよりも神殿は年上だよ。おとうさんおかあさんだって、赤ちゃんだったときがあるんだよ。今は大人になってるけれど。じゃあ、みんなのじいじやばあばは何歳かな？じいじやばあばは

きっと46歳よりも上じゃないかな？それなら神殿よりも年上だね。でね、イエスさまは、神殿を壊してごらんて言うんです。よくわからないことをイエスさまは言っています。イエスさまは、「この神殿は今ではきらびやかできれいだけれども、いつかは壊れて、建てなおししなければいけなくなる」と言っています。建物って古くなったら建て替えるのです。建て替えないと、だんだんボロボロになってきて、崩れてしまうのです。そして、人間もいつか年をとると死んでしまうって、みなさん、わかりますか？難しいね。いつか死んじゃうんです。みなさんは犬や猫などの生き物は飼っていますか？犬も猫もいつか必ず死んじゃいます（じいじもばあばも、お父さんもお母さんも）。悲しいです（涙をふく動作をする）。でも、イエスさまは「わたしが三日で建て直すから」って言いました。これは、イエスさまが死んじゃっても三日したら天国で生き返りますと言っているのです。イエスさまだけじゃない。わたしたちの飼っている犬や猫、今は「かわいい、かわいい」って頭をなでてあげられるけど、いつか死んじゃう（大好きなお父さんお母さんも、じいじもばあばも）。でも「天国でまた会えるよ」ってイエスさまは言っているのです。

### ★分級への展開

#### さんびしよう

\* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

37番

改訂124番

#### 話してみよう

・みんなの飼っている犬や猫について聞かせて？

（ペットが死んでしまったという経験をした子どももいるかもしれないので、配慮すること。また、ペットだけでなく「人」への言及まで突っ込んで行きたい）

・天国ってどんなところかな？もし自分の飼っている犬か猫（あるいはパパやママ、じいじやばあば、つまり自分にとって“愛しい人”）が死んでしまって天国へ行ったら、そこで何て声をかけてあげたいかな？（大好き！とか...）

#### やってみよう

家族やペットのプロフィールカードをつくらう

どんなに大切な人でも、ずっと一緒にはいられないけれどイエスさまは「天国でまた会えるよ」って言っています。みんなの大切な人をみんなに紹介してみよう。

<用意するもの>・紙・えんぴつ・ペン・色えんぴつ

1. 紙に、紹介したい人（ペット）の似顔絵や、長所やかわいいところ、どんなところが好きかなどを書く。

2. それをみんなで発表する。

★今週の聖句

その独り子をお与えになったほどに、世を愛された

ヨハネによる福音書 3章16節

★ねらい

世界の大きさと比較させ、神さまの愛がどれほど大きなものを理解させる。

★説教作成のポイント

ヨハネ福音書は物語形式の単元よりも説明調で説教スタイルの箇所が多いので子どもたちに伝えるのが一苦労である。この単元の「神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛された」はとても有名な箇所であるが、幼稚園から小学校低学年の子どもに説明をするとやがて難しくなるので、何らかのツールを用いてメッセージをしたいところ。「世」とは英語の「ワールド」のこと、つまり「世界」を意味する。よって、全世界を見せるため世界地図、あるいは地球儀を用意したい。また、iPadで地球の写真、あるいはアメリカや日本の国旗を見せて世界を説明するのも一つの手だ。なお、受難節に選ばれている箇所としてイエスさまの受難にも触れて行きたいところだが、ここではあえて神様の愛の大きさを伝える工夫をより重視したい。

★豆知識

ヨハネ福音書において「世」とは元来、イエスと敵対関係にある概念である（「世は言によって成ったが、世は言を認めなかった」ヨハネ 1:10）。「言」はイエスを指す。敵対関係にあったこの「世」に、神はその独り子を遣わす決断をされた。ここに愛がある。

★説教

（世界地図、あるいは地球儀を見せて）みなさん、これはなんだか分かりますか？はい、世界地図です（地球儀であれば「地球です」）。ではここはどこですか？（アメリカを指さす。子どもたちに答えさせる。「...日本！アメリカ！モンゴル！」）はい、正解はアメリカです。ではわたしたちの住んでいる日本はどこですか？（同様に答えさせる...）。では、神様が愛しておられる国はどこでしょう？（...みんなはそれぞれの答えを出す）。聖書には「神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛された」というふうに書かれています。「世というのは...」（世界のどこだろうと考えるふりをして指をさすところを迷う動作をする）。「世」というのはこの世界全部のことです。日本だけでなく、アメリカも中国もドイツもロシアも...全部の国を神様は愛しておられます（世界地図であれば、世界全部を丸く指で囲む動作をする。地球儀であれば、地球儀に抱きつく）。世界中の国のすべての人を神様は愛しているのですが、では、愛しているとは、どういうことでしょうか？男の人と女の人がラブラブでいることが愛するということでしょうか？これとは少し違うのです。神様の愛というのは、たとえば「（だれか具体的にその場にいる子どもの名を挙げて）〇〇くん、おなか空かせてないかな？」って心配するママの気持ちを考えてみて？、あるいは「〇〇ちゃん、風邪を引いたって聞いたけど、苦しい思いをしていないかな？鼻が詰まって息が苦しかったり咳が出て大変な思いをしていないかな？」って心配しているじいじやばあばの気持ちを考えてみて？神様もそう。みんなのこと、とても大切に思って、いつも心配してくれている。神様はそういうふう

にわたしたちを愛してくださっているのです。そして、いつか...みんなが年をとって死んでしまったときに天国にちゃんと行けるようにって考えてくれてね。天国にいてもみんなで仲良く楽しく暮らせるようにって、イエスさまをこの世にお遣わしになったのです。（世界地図あるいは地球儀を指さして）全世界に住んでいる人々みんなが死んでしまっても天国に行けますようにって神様はちゃんと考えてくださっている。そのようにして神様は全世界の人々を、その中にはわたしたちも含まれていますよ、神様はわたしたちを愛してくださっているのです。おしまい。

### ★分級への展開

#### さんびしよう

\* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

- 5 番
- 改訂 4 9 番

#### 話してみよう

- ・みんなは外国に行ったことはあるかな？それはどこかな？  
（世界中の人を愛している神様ってすごいね、と伝えたい）
- ・最近風邪を引いた人とか、ケガをした人とか心配している人はいますか？  
（みんなのママもパパもみんなのこと心配しているよ、神様と同じくらいに...）

#### やってみよう

☆愛がいっぱいカードをつくろう

<用意するもの> 画用紙（大きさは自由）、折り紙、のり

- ①画用紙いっぱいにハートの形を描く。
- ②好きな色の折り紙を小さくちぎる。（何色かずつ）
- ③画用紙のハートの中にちぎった折り紙をペタペタ貼る。

歌集「友よ歌おう」より 「すんばらしき主イエスの愛」をジェスチャー付きで歌おう。

「どんなときも私たちは神さまの大きな愛に包まれています。神さまの愛を心に感じると  
すごーくあったかい気持ちになるよね。」

★今週の聖句

わたしを信じる者が、だれも暗闇の中にとどまることがないように、  
わたしは光として世に来た

ヨハネによる福音書 12章46節

★ねらい

聖壇のろうそくの灯りとイエスさまを重ねて合わせながら、イエスさまがわたしたちとともにいてくださることを理解させる。

★説教作成のヒント

ヨハネ福音書は観念的な言葉が多く続くため、子どもたちにメッセージをするには大変苦労する。よって、身近にあるモノや絵を使って分かりやすく説明することに努めたい。「わたしは世の光である」というイエスさまを聖壇のろうそくの灯りに見立てて、話して行きたい。実際に手元に燭台を置いて、どうして礼拝でろうそくの火を灯すのかを説明すると、おのずとみことばの意味が浮き出てくる。また、受難節に選ばれているテキストだが、イエスさまの受難を子どもたちに理解させることに重きを置くよりも「イエスさまが共にいてくださる」という大事なメッセージを分かりやすく伝えるための大事な箇所としてこのテキストを用いたい。

★豆知識

そもそも、礼拝においてろうそくに火を灯すのは、原始教会が迫害の時代にあって、人眼を避けて洞窟や地下で礼拝をしていた時に聖書朗読の際、暗い室内で文字が読み辛かったために、聖書の文字にろうそくの灯りを近づけて読んだことに端を発する。これは、わたしたちがクリスマス・イヴのキャンドル礼拝を思い起こすと、経験的に理解できるものである。この初期の教会の伝統が「世の光イエスが礼拝時においてわたしたちと共におられる」ということを象徴的に示すものとして現代の教会にあって（このLED全盛の時代に）も守られている。

★説教

（聖壇から燭台を手元に持ってきてみんなに見せる。礼拝中にろうそくの灯りを灯している場合は十分に火に注意してください）。これを見てください。これはいったいなんでしょう？（子どもたちに答えさせる）。はい、正解。ろうそくです。みんなはどうして礼拝でろうそくに灯りを灯すのか知っていますか？お線香に火を灯すため？ブブーッ。違います。タバコに火をつけるため？ブブーッ。これも違います。じつはね、礼拝でろうそくに火を灯すのは、イエスさまが「わたしを信じる者が、だれも暗闇の中にとどまることがないように」と言われたことを思い出すためにつけるのです。みなさん、暗いところ、怖くありませんか？夜、トイレに行くとき廊下が真っ暗だと怖いですがよね。みなさんは夜、一人でトイレに行けますか？あのね、イエスさまは「わたしは世の光です」と言われました。イエスさまは暗い廊下だけじゃなくて、全世界を照らす光としてこの世界に来られました。わたしたちはろうそくに灯された灯りを見るたびに「ああ、イエ

スさまがこの世界を照らす光として今、ここにわたしたちと共にいてくださる」ということを思い起こすのです。もちろん、このろうそくの火がイエスさまなのではありません。これはあくまで「火」です。わたしたちは、ろうそくの火をみるたびに「イエスさまが今ここに共にいてくださる」ということを知るのです。そういう意味では、礼拝は大事な時間ですね。イエスさまがいつも一緒ということを知る時間なのですから。あっ、夜、トイレに行くときにこそ「イエスさまが共にいてくださるから怖くない」ということを思い出して電気を付けてくださいね。

## ★分級への展開

### さんびしよう

\* 讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

- 32番
- 改訂82番

### 話してみよう

- ・ろうそくを家で使うことはありますか？
- ・聖壇のアコライト当番をしたことがありますか？スタッフの人に手伝ってもらいながらろうそくに火をつけてみようか？（実際に行う時には十分ご注意ください）。
- ・普段の生活の中でイエスさまが共にいてくださると思う時はどんなときですか？

### やってみよう

☆キャンドルに火を灯し、イエス様の光を体感しよう。

部屋を暗くして、キャンドルに灯を灯します。キャンドルの火を見ながら、光の子として世にいられたイエス様のことを話し合ってみましょう。

- ・もし、光がなかったら？・真っ暗だとどんな感じ？・光があるとどんな気持ちになる？

☆イエスさまの光キャンドルをつくろう

<用紙するもの> 古いろうそく、古いクレヨン、タコ糸、割りばし、紙コップ、アルミお弁当用カップや色々な形のシリコンカップ等、小さいビンでもOK！

- ①ろうそく、好きな色のクレヨンを削る。
- ②鍋で削ったろうそくとクレヨンを溶かす。（ろうそくの芯は取り出す）
- ③溶かしたろうそくにタコ糸を浸して取り出す。
- ④溶かしたロウを型に流し込む。
- ⑤割りばしにタコ糸を挟み、ロウの真ん中に芯となるように、底を切った紙コップを使って固定する。
- ⑥固まったらできあがり。

## 2015年3月29日 枝の主日

マルコ 11:1-11    ゼカリヤ 9:9-10    フィリピ 2:6-11

### ★今週の聖句

「ホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように」

マルコによる福音書 11:9

### ★ ねらい

イエスさまをお迎えする心を整える。

### ★ 説教作成のヒント

この日から受難週に入る。いよいよイエスさまは自分が十字架にかけられる姿を心に描きながら、その決意を子ろばに乗ってエルサレムに入ることを通して行動に移して行く。自分が死ぬことを分かっている、その町に入るその心のひっ迫感はいかほどであろうか？このイエスさまの心とは裏腹に、群衆は歓喜の声をあげてイエスを迎える。「ホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように」。この箇所から子どもたちに何を伝えたらよいか悩むところだが、3月15日の四旬節第4主日、ヨハネ福音書3章13-21節の箇所で語られるみことばの延長線上にこの日の箇所を置いて考えて行きたい。つまり、「この世界に」来られたイエスさまはいよいよ、「わたしたちのところに」来られる。その日のメッセージ時と同様に世界地図または地球儀を用意したい。全世界を子どもたちに見せつつ、「わたしたちはイエスさまをどのようにお迎えしようか？」そのことを考えて行きたい。

### ★ 豆知識

「ホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように」とある9節のみことばは詩編28編25-26節の引用である。これはわたしたちの礼拝にある聖餐の部の「サンクトゥス」のように主をほめたたえる言葉である。マルコの教会で礼拝時にこのみことばを朗読または歌ったものと思われる。

### ★ 説教

(…CSを始めるときにこの日だけアコライトに火を灯さないでおく。お話の中で火を灯すため)「神さまはその独り子をお与えになったほどに、世を愛された」というみことばをみなさんおぼえていますか？(世界地図あるいは地球儀を見せて)この世界を神様は愛して、イエスをお遣わしになりました。そして、、、このわたしたちの住む日本の(日本を指さす)、ここ！(地図の、あるいは地球儀の、教会のある県・府・道・都の部分指さす)、つまりわたしたちの教会にイエスさまがおいでになります！(周りを見回しながら、え？どこどこ？という雰囲気を出す)。イスラエルという国の人々は「ホサナ、主の名によって来られる方に、祝福があるように！」というかけ声をあげてイエスさまをお迎えしました。さあ、わたしたちはなんというかけ声でイエスさまをお迎えしましょうか？

イエスさまがわたしたちのところに来られるのは、サンタクロースのようにみんなにプレゼントを届けるためではありません(がっかり…)。お歌を歌ったり、ダンスを踊ったりするためでもありません。じつは、イエスさまは、わたしたちがいつか死んでしまっても、天国でみんなが仲良く生きられるために、ご自分の命を捨てるほど愛してくださる、そのためにおいでに

なるのです。みなさんがいつか天国に行けますように。死んでしまって滅んでしまわないようにと、お祈りしてくれるためにイエスさまが来てくださるのです。みなさんはお祈りするとき、どんなふうにしますか？両手を合わせて、目をつむって、静かにしてお祈りしますよね。イエスさまと一緒に祈りをする、そういうふうにしてイエスさまをお迎えしましょう。今からアコライトに火を灯します。どうぞお祈りする姿勢でしずかにして、イエスさまをお迎えします。

(…ここでアコライトに火を灯します。みんなは静かに黙とうしています。おしゃべりしている子どもがいたら静かにさせます)。(…アコライトの火が灯ったら) みなさん、ろうそくに火が灯りました。このろうそくの灯りを見て、わたしたちは「あ、イエスさまがここに来て下さった。今ここに、目には見えなくても、イエスさまがわたしたちと一緒にいてくださる」ということを知るので。イエスさまが、わたしたちが天国へ行けるよう祈ってくださって、十字架にかかって命をすててくださることに感謝して祈りましょう。(ここで祈りをして、お話はおしまい)

### ★分級への展開

#### さんびしよう

\* 讃美歌は”こどもさんびか” (日キ版) より

- 112番
- 改訂85番

#### 話してみよう

- ・イエスさまはどんな思いをして、わたしたちのもとに来られたんだろう？  
(先に天国に旅立ったわたしたちの愛する人たち(飼っていた犬や猫も含む)と再会できたときのわたしたちの喜んだ顔をイエスさまは見たいんじゃないかな?)
- ・イエスさまが十字架にかけられるってきいたけど、十字架にかかるってとても痛いことなんじゃないかな？みなさんが今まで一番痛かったのはどんなときだったかな？  
(ヒザ小僧をけがしたとき？歯が痛いのもヤダよね?)

#### やってみよう

☆十字架にかかられたイエス様の痛みを感じてみよう

<用意するもの> 保冷剤2個(氷でも可)、タオル

- ①輪になり、まず一人が両手に1個ずつ保冷剤を持つ。
- ②冷たさを我慢できなくなったら、隣の人にパスする。
- ③順番にパスしていき、全員に回す。
- ④一人一人感じたことを話してみよう。。

そして、十字架にかかられたイエス様の痛みを考えてみましょう。

イエス様は、私たちの罪の赦しのため、十字架にかかり命をすててくださったことを覚えて今週を過ごし、新しい命が与えられるイースターを待ちましょう。